

# トピック 「世界農業遺産」プロジェクト

## 琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業を「世界農業遺産」へ

滋賀県では、1000年の歴史を誇るエリ漁等による資源にやさしい「琵琶湖の伝統漁業」、湖魚が琵琶湖から水路を遡って産卵にやってくる「魚のゆりかご水田」、「ふなずし」をはじめとする「伝統的な食文化」などが滋賀の風土と歴史の中で受け継がれてきました。

これらに加え、琵琶湖を守るための現代的な取組として、「環境こだわり農業」や森林の保全活動なども、多様な主体によって行われています。

このような「琵琶湖と共生する農林水産業」を、世界に誇るべき「琵琶湖システム」として発信するため、県、県内全市町、関係団体等が一体となって、「世界農業遺産」の認定を目指しています。

この取組を通じて、県産物の高付加価値化を図るとともに、農山漁村の魅力を観光資源としての活用につなげ、本県農林水産業を健全な姿で次世代に引き継いでまいります。認定に向けて、さらに活動の輪を広げていくため、多くの皆さん（個人、団体等）に参画を呼びかけています。詳しくは県農政課HPをご覧ください。

滋賀県 世界農業遺産 [検索](#)



図T-1 琵琶湖との共生の営み

### 世界農業遺産 (GIAHS) とは…

- 何世代にもわたり形づくられてきた伝統的な農林水産業と、それに関わって育まれた文化、景観、生物多様性などが一体となった世界的に重要なシステムを、国連食糧農業機関 (FAO) が認定する仕組みです。
- 持続可能な農林水産業と農山漁村の営みが対象となるもので、国連による持続可能な開発目標 (SDGs) の達成にも寄与するものです。

農政課

# 魚のゆりかご水田プロジェクト トピック

## 1. 琵琶湖周辺の水田

かつて琵琶湖周辺の水田は、フナ、コイ、ナマズ等、湖魚の格好の産卵・成育の場でした。しかしそこは、琵琶湖の水位変動の影響を受けやすく、浸水被害に見舞われたり、田舟での農作業を余儀なくされるなど、農業をするには非常に不利な地域でもありました。

昭和40年代以降に行われた琵琶湖総合開発やほ場整備事業などにより、水害は減少し、農業生産性は向上しました。一方で、水田と排水路との間に大きな落差ができ、湖魚が水田へ遡上しにくくなってしまいました。

そこで、滋賀県が取り組んだのが、湖魚の産卵・成育の場としての環境を取り戻すために水路に魚道を設置し、湖魚が水田へ遡上できるようにする「魚のゆりかご水田プロジェクト」です。



写真T-1 水路を遡上するフナ

## 2. 水田が“ゆりかご”とは？

田植え後の水田に、ニゴロブナの親魚を放流し産卵させ、中干しまでの稚魚の成育状況を調査したところ、水田は水深が浅く日射により水温が上がりやすいこと、

また外敵が少ないことなどから、稚魚の生残率（稚魚数／産卵数）は平均で約30%、高いところでは60%となり、琵琶湖沿岸のヨシ帯よりも優れていることがわかりました。

また、水田は魚のえさとなるプランクトンが豊富でブラックバスなどの外敵が少ないことから成長面でも優れ、ふ化後約1ヶ月で遊泳力が備わる全長2cmに達することも確認されました。

まさに水田は、稚魚を育む「ゆりかご」であることが確認されたのです。



写真T-2 水田で遊泳する稚魚

## 3. 取組の効果

このプロジェクトに取り組むことにより、生物多様性の保全のほか、地域コミュニティの活性化や環境意識の向上、また、ブランド米である「魚のゆりかご水田米」の生産など、様々な効果の発現が期待されます。

農村振興課